



も く じ

日本家庭科教育学会 第57回 岡山大会へのおさそい	中国地区会会長	多々納道子	1
第33回日本家庭科教育学会中国地区会研究発表会並びに総会報告			2
研究発表要旨			6
第33回日本家庭科教育学会中国地区会講演資料	京都大学大学院教育学研究科准教授		13
「パフォーマンス評価の考え方と進め方」		西岡 加名恵	
研究室だより	広島大学	伊藤 圭子	24
学校現場から	岡山大学教育学部附属小学校	信清亜希子	25
日本家庭科教育学会「岡山大会」開催のお知らせ			26
「共同研究報告書」作成のお礼	山口大学	西 敦子	28
本部だより	中国地区会代表者	佐藤 園	29
事務局だより	福田恵子 (鳥取大学) 丸橋静香 (島根大学)		30


 日本家庭科教育学会 第57回 岡山大会へのおさそい
 

中国地区会会長 多々納 道子

平成26年6月28日(土)、29日(日)の両日、岡山大学教育学部を会場校として、日本家庭科教育学会第57回大会が開催されます。通称、家庭科教育学会の全国大会です。この全国大会は、日本家庭科教育学会の理事会と地元である中国地区会との共催によるものです。したがって、中国地区会では岡山大学の佐藤園実行委員長のもとに実行委員会を設けて、盛会となるよう準備に取り組んでおります。

2日間の主なスケジュールは、研究発表、総会、講演会・シンポジウムとラウンドテーブルです。研究発表は、学会活動のメインです。その内容は、衣・食・住や家族・保育、消費や環境、家庭科教育というような切り口からの研究とともに、ESD(持続的な発展)教育など、現在・将来にわたって我々の生活のバックボーンとなる考え方に基づく意識調査や授業研究など、家庭科の新しい方向性を目指す研究など多様で、日々の授業実践にも役立つものばかりです。

講演会・シンポジウムでは、早ければ平成27年度から先行実施されるという「道徳の教科化」を意識して、「いま進んでいる教育改革と家庭科—道徳的価値を改めて問う」というテーマの下に、金沢大学人間社会学群学校教育学類の松下良平先生に『生き方の転換とホームの再定義—ガイドとしての道徳・倫理』と題して講演をしていただきます。その後にシンポジウムを行います。シンポジストの一人は、中国地区会委員の國本洋美先生です。

もう一つは、ラウンドテーブルです。これは、「生きる力をそなえた子どもたち—それは家庭科教育から」というテーマのもとに、「家庭科で家族をどう教えるか」、「生活実践力を育成する家庭科の授業開発」及び「ESDとしての家庭科教育の可能性と役割」という三つのラウンドテーブルを形成し、現場の先生方から授業実践を発表してもらい、参加者との議論を踏まえて、「生きる力」を根底から支えている家庭科教育の在り方を問い直すという内容です。このラウンドテーブルの担当は中国地区会であり、進行役のコーディネータと実践発表の先生方は、ほとんどが中国地区会員です。

このような家庭科教育に関する研究や授業に取り組む際に参考になる考え方や授業実践、また全国から参加された方々との交流、懇親会では岡山のおいしい味覚を味わっていただくなど、学びと楽しみが重ね合わさっている大会です。是非ともご参加いただきますようご案内いたします。また、この機会に日本家庭科教育学会の全国の会員になられることをオススメします。

日本家庭科教育学会中国地区会第33回総会 報告

第33回日本家庭科教育学会中国地区会研究発表並びに総会が、2013年8月25日(土)に安田女子大学で開催された。

総会次第

司会進行 福田 恵子

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 開会の辞 鳥井 葉子 2 会長挨拶 入江 和夫 3 会場校挨拶 鳥井 葉子 4 議長選出 柴 静子 5 議事 (1) 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①平成24年度庶務報告 西 敦子 ②平成24年度会計報告 西 敦子 ③平成24年度会計監査報告 井上富美子 | <ol style="list-style-type: none"> (2) 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> ①役員改選及び新体制について 入江 和夫 ②全国大会実行委員会について 佐藤 園 ③平成25年度事業計画 西 敦子 ④平成25年度会計予算 西 敦子 ⑤共同研究について 西 敦子 ④その他(全国大会との共同開催) 多々納道子 6 次期会場校(岡山大学)挨拶 佐藤 園 7 閉会の辞 鳥井 葉子 |
|---|---|

[報告事項]

1. 平成24年度 庶務報告

- ① 地区会現況報告(平成24年8月末日 現在)

鳥取県5名 広島県47名 岡山県12名 島根県21名 山口県15名
計100名 (平成23年7月末 117名)
- ② 平成24年度事業報告 (平成24年4月～平成25年3月)

平成24年6月 日本家庭科教育学会中国地区会第32回研究発表会並びに総会案内送付 (島根大学)

平成24年8月 役員会開催 (島根大学)

平成24年8月 日本家庭科教育学会中国地区会第32回研究発表会並びに総会 (島根大学)

平成25年3月 会報第33号発行

2. 平成24年度 会計報告

*一般会計(自:平成24年4月1日～至:平成25年3月31日)

<収入の部>

(単位 円)

費目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金	106,900	106,900	
地区会費	99,000	87,000	1,000×87人分
本部からの交付金	57,780	57,780	
教大協からの補助金	25,000	30,000	
雑収入	10	32	預金利息
合計	288,690	281,712	

<支出の部>

(単位 円)

費目	予算額	決算額	摘要
総会費	70,000	70,000	
通信費	15,000	7,680	80×96通
事務用品費	5,000	2,995	
会議費	10,000	7,436	
印刷費	10,000	0	会報33号
雑費	2,000	0	
特別会計へ繰入	50,000	50,000	共同研究費
予備費	126,690	0	
合計	288,690	138,111	

<次年度繰越金> 143,601 円

*特別会計 (自:平成24年4月1日~至:平成25年3月31日)

<収入の部>

(単位:円)

事項	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	547,614	547,614	
一般会計から繰入	50,000	50,000	
印税	0	4,000	報告書
利子	80	83	
計	597,694	601,697	

<支出の部>

事項	予算額	決算額	備考
共同研究報告書出版費(買上げ)	0	0	
予備費	597,694	0	
計	597,694	0	

<次年度繰越金> 601,697 円

3. 平成24年度 会計監査報告

【協議事項】

1. 役員改選および新体制について

(1) 平成25・26年度役員選出結果

- ・広島県 鳥井 葉子 (安田女子大学)
- ・山口県 西 敦子 (山口大学)
- ・鳥取県 福田 恵子 (鳥取大学)
- ・島根県 多々納 道子 (島根大学)
- ・岡山県 佐藤 園 (岡山大学)

(2) 役割分担 (H25.8~H27.7)

役職	所属	氏名
地区 会長	島根大学	多々納 道子 ✓
地区副会長	岡山大学 鳥取大学	佐藤 園 ※ ✓ 福田 恵子
会計監査	山口大学 安田女子大学	西 敦子 ✓ 鳥井 葉子 ✓
庶務 会 計	鳥取大学 島根大学	福田 恵子 丸橋 静香 ✓

(※は地区代表者)

2. 全国大会 (岡山大会) 実行委員会について

(1) 実行委員

岡山	佐藤 園 (岡山大学) <u>実行委員長</u>	篠原 陽子 (岡山大学)
広島	鳥井 葉子 (安田女子大学)	柴 静子 (広島大学)
鳥取	福田 恵子 (鳥取大学)	
島根	多々納 道子 (島根大学) <u>副実行委員長</u>	丸橋 静香 (島根大学)
山口	入江 和夫 (山口大学)	西 敦子 (山口大学)

(2) 実行委員会の活動 (略)

3. 平成 25 年度事業計画 (自:平成 25 年 4 月 1 日~至:平成 26 年 3 月 31 日)

平成 25 年 6 月 日本家庭科教育学会中国地区会第 33 回研究発表会並びに総会案内送付
(安田女子大学)

平成 25 年 8 月 役員会開催 (安田女子大学)

平成 25 年 8 月 全国大会実行委員会 (安田女子大学) この後適宜開催

平成 25 年 8 月 日本家庭科教育学会中国地区会第 33 回研究発表会並びに総会 (安田女子大学)

平成 26 年 3 月 会報第 34 号発行

4. 平成 25 年度会計 予算

*一般会計 (自:平成 25 年 4 月 1 日~至:平成 26 年 3 月 31 日)

<収入の部>

(単位:円)

費目	23 年度決算額	予算額	摘要
前年度繰越金	106,900	143,601	
地区会費	87,000	100,000	1,000×100 人分
本部からの交付金	57,780	57,990	

教大協からの補助金	30,000	30,000	
雑収入	32	10	預金利息
計	281,712	331,601	

<支出の部>

費目	24年度決算額	予算額	摘要
総会費	70,000	70,000	
通信費	7,680	15,000	
事務用品費	2,995	5,000	
会議費	7,436	20,000	
印刷費	0	10,000	会報34号
雑費	0	2,000	
共同研究費(特別会計)	50,000	100,000	共同研究費、全国大会準備金
予備費	0	109,601	
計	138,111	331,601	

* 特別会計 (自:平成24年4月1日~至:平成25年3月31日)

<収入の部>

(単位:円)

事項	23年度決算額	予算額	摘要
前年度繰越金	547,614	601,697	
一般会計から繰入	50,000	100,000	
印税	4,000	1,000	報告書
利子	83	80	
計	601,697	702,777	

<支出の部>

(単位:円)

事項	23年度決算額	予算額	摘要
報告書出版費	0	260,000	A4版1,300×200冊
全国大会準備金		100,000	
予備費	0	342,777	
計	0	702,777	

5. 共同研究について

- ・研究期間 : 平成23年度~25年度
- ・研究テーマ : 生活実践力を育成する家庭科の授業開発
- ・申し込み状況 : 研究部門 19編
教材紹介部門 5編
- ・報告書出版 : 平成26年6月 (*岡山大会に向けて出版する)

日本家庭科教育学会中国地区会 第33回 研究発表会・総会

発表要旨

期 日 平成25年8月24日(土)

場 所 安田女子大学 4201教室

広島市安佐南区安東6-13-1

TEL 082-878-9525

日 程

(11:00~12:30	役員会)
12:30~	受付
13:00~13:30	総会
13:30~14:45	研究発表
14:45~15:00	休憩
15:00~16:40	講演
16:40~16:50	閉会行事

研 究 発 表 13:30～14:45

1. 高等学校家庭科における社会形成能力を育成するカリキュラムの開発

広島大学大学院教育学研究科 (院生) ○段吉 真由美

(広島県立沼南高等学校)

広島大学大学院教育学研究科 鈴木 明子

2. 中学入学時のESDに関するレディネス

鳥取大学附属中学校 ○増田 直美

鳥取大学地域教育学部 福田 恵子

3. 実践的推論プロセスを取り入れた問題解決型学習の試み

—鳥根県家庭科研究会松江地区会平成24年度研究より—

鳥根県立宍道高等学校 ○錦織 教子

青木 淳子

鳥取大学地域教育学部 福田 恵子

4. メタ認知能力育成をめざした調理学実習の試み

安田女子大学家政学部 田中 由美子

5. フードマイレージを取り入れた買い物の学習とその改善

光市立室積小学校 ○松本マリ子

山口大学教育学部 西 敦子

【発表番号1】

高等学校家庭科における社会形成能力を育成するカリキュラムの開発

広島大学大学院教育学研究科(院生) ○段吉 真由美
(広島県立沼南高等学校)

広島大学大学院教育学研究科 鈴木 明子

1 研究目的

高等学校家庭科において、生徒の主体的な学習活動を重視したカリキュラム開発が求められている。高校生の現状と課題として、将来への不安、学校の学びが実生活や自分の将来と結び付かないこと、学習意欲の低下、学習習慣の不確立等が挙げられるが、それらは勤務校の生徒においても同様である。家政科に入学した生徒であっても、生活体験の減少により、生活に関わる基礎的・基本的な知識や技能を習得していない実態がある。

「人間関係形成・社会形成能力」は、社会とのかかわりの中で生活し、仕事をしていく上で基礎となる能力であり、キャリア教育(中教審, 2011)が提示する4つの能力のひとつである。高等学校家庭科では、社会とのかかわりの中で営まれる家庭生活や地域の生活への関心を高め、生涯を見通して生活を創造する主体としての視点からの学びを大切にしている。よりよく生きていこうとする意欲を高めるとともに、変化の激しい社会の中で、自ら考え意思決定を行い、周囲の人と共に問題を解決できる力を生徒に身に付けさせたい。そのために、社会形成能力を育むことを目指したカリキュラム改善をはかることが効果的であると考えた。

家庭科においては、従来から、「地域の産品を扱う」、「学校の周辺地域で活動を行う」、「地域の人々との交流を行う」等、地域の教育資源を活用した実践が行われてきた。鎌田・山田(2007)は、地域の人材活用や職業体験を取り入れていくことにより、生徒が身近な他者との人間関係を新たに構築し、コミュニケーション能力の向上や価値観の変容を促すことを示唆した。石島(2012)は、高校生の社会参画意識と家庭科の教育要因、社会意識要因との関連について調査し、地域との関わりが、社会参画への第一歩になることを示唆した。そして、家庭科で、参加型の実験・実習、体験、問題解決学習及び調べ学習等の学習方法を取り入れ、他者とのかかわりがもてるような学習環境づくりに努めることは、社会参画意識の形成支援に有効であるとしている。荒井きよみ(2011)は「社会とのつながり」に焦点をあてた家庭科カリキュラムを開発し、その有効性を示した。

以上の先行研究から、社会形成能力を育成するためには、地域の教育資源を活用し、継続的に他者と関わる学習活動を行うことが有効であると考えられるが、年間を通して継続的に実践されたカリキュラム研究はほとんど見られない。そこで、本研究では、社会形成能力の育成を志向した高等学校家庭科カリキュラムを提案することを目的とし、本報では、その方向性の検討と具体化の過程を示し、カリキュラム開発の可能性を探る。

2 方法

河崎(2004)、荒井きよみ(2011)、辰巳(2011)ら5つの先行研究を参考に、「人間関係形成・社会形成能力」の4段階を設定し、下位目標を明らかにした。さらに、荒井紀子(2008)の「学びの構造図」も参考に、社会形成能力の育成をめざす「家庭総合」1年間のカリキュラムを構想し、提示した。2013年4月から勤務校第1学年において、筆者が実践を試みている。

3 結果

先行研究から得られた示唆を基に、地域の教育資源としての高齢者及び幼児との複数回の交流に加え、継続的に他者とかかわり、振り返る学習活動を毎時間の授業に位置付けた社会形成能力の育成をめざすカリキュラムを構想した。「人間関係形成・社会形成能力」につながる「他者とかかわり共に生きる力」の育成の視点から、題材を配列した。他者との交流や調理実習などの実践的・体験的な学習活動からの学びに加え、ホームプロジェクト活動や地域での活動等、生徒が学んだことを実践できる場を意図的に設けた。家庭及び地域と協働して生徒を育てていく過程で、生徒が周囲との人間関係を深め、他者や社会に対して貢献したいという意欲を高めている様子が観察できている。

中学入学時のESDに関するレディネス

鳥取大学附属中学校 ○増田 直美
鳥取大学地域学部 福田 恵子

1. 研究目的

かつての家庭科教育では消費者としての保護や権利に重きのおかれる教育がなされてきたが、現行の学習指導要領では主体的に生きる消費者を育む視点が重視されている。その背景には、2004年の消費者基本法の制定や2009年の消費者庁の設立などがあるが、このような社会の中で消費者市民社会―「消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会（消費者教育推進法）」の推進が求められ、中学校家庭科においてもESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた新たな問題解決型の消費者教育が目指されなければならない。

本研究は、中学入学時のESDに関する生徒のレディネスを把握することを通して、消費者市民としての意識を育て行動に結びつける問題解決学習の効果的な指導法を探ることを目的とする。

2. 調査方法

(1)調査対象：鳥取大学附属中学校 第1学年155名（男子88名、女子67名）

(2)調査時期：平成25年4月、中学校入学時の最初の家庭科の授業で実施した。

(3)調査内容：次の12項目を調査した。ESDでつちかいたい「価値観」として①私たちには社会的・経済的に公平な社会をつくる責任がある②現世代は将来世代に対する責任を持っている。ESDを通じて育みたい「能力」として③自分で感じ、考える力④問題の本質を見抜く力/批判する思考力⑤気持ちや考えを表現する力⑥多様な価値観をみとめ、尊重する力⑦他者と協力してものごとを進める力⑧具体的な解決方法を生み出す力⑨自分が望む社会を思い描く力⑩みずから実践する力。ESDが大切にしている「学びの方法」として⑪学習者の主体性を尊重する⑫関わる人が互いに学び合える。

3. 結果および考察

まず、「消費について家庭でよく話をする」生徒は、「未来の人に対して責任ある行動をとらなければならない」という意識との関連が認められ、一方、家庭で消費について話をする事の少ない生徒は、「世界とのつながりを考えたり実感したりする経験」も少ないことが明らかとなった。

次に、「新聞やニュースを毎日の習慣として見る」生徒は、上記同様、「未来の人に対して責任ある行動をとらなければならない」と思っており、さらに、新聞やニュースを見るときに「なぜ?」「おかしい」と自分なりに考えたり、「もっとこうの方がよい」と具体的な案をもって考えたりすることとも関連がみられた。

最後に、「班での話し合いによって考え方がより広がる」と回答した生徒は、「未来の人に対して責任ある行動をとらなければならない」という意識項目と、「自分は未来の人たちの暮らしを考えて何か行動している」という行動項目、加えて、「自分の地域や生活をよくするために何か行動したことがある」という行動項目との関連がみられた。なお、これらには性差のないことも判明した。

以上のことから、(1)家庭との連携により「持続可能な社会」への責任意識が高まること、(2)新聞・ニュースの活用によりやわらかな批判的思考力が高まること、(3)協同学習による多角的・複眼的な思考の広がりを実際の行動実践へとつながっていることが明らかとなった。これらはESD-J（国連持続可能な開発のための教育の10年推進会議）のとらえるESDの視点、すなわちESDで培いたい「価値観」（現世代は将来世代に対する責任をもっている）、ESDを通じて育みたい「能力」（問題の本質を見抜く力/批判する思考力・他者と協力してものごとを進める力・自ら実践する力）、ESDが大切にしている「学びの方法」（かかわる人が互いに学び合える）、とも一致しているといえよう。今後、授業実践にこれらを取り入れることにより、さらなる効果を検証していきたいと考えている。

【発表番号3】

実践的推論プロセスを取り入れた問題解決型学習の試み
— 島根県高等学校家庭科研究会松江地区会 H24 年度研究より —

島根県立宍道高等学校 ○錦織 教子, 青木 淳子
鳥取大学地域学部 福田 恵子

1. 研究目的

昨年度報告した「高等学校家庭科におけるホームプロジェクト（以下HP）指導の実情と課題」では、HP 指導の現状の課題と、充実した指導のための方策を探った。その中で、生徒の問題発見力や、解決のためのスキルの乏しさが指摘され、段階的な指導と、他者が関与する学習方法、また結果だけでなく過程を重視する評価の必要性、さらにはHP 指導の場面に限らず、授業の中で段階（問題の発見→課題設定→解の探索）を追い、多角的視点を得るトレーニングを積む必要性が明らかとなった。本研究では、特に生徒が問題自体に無自覚であることから、批判的視点を育てること、そして問題解決の過程を丁寧に体験させることを重視した問題解決型学習を松江地区全体で試みた。

2. 研究方法

問題解決の学習方法として、実践的推論プロセス(荒井)を取り入れた。実践的推論プロセスでは、「行為に至るプロセス」を、段階を追って積み上げていくことを重視し、思考を深めるための学習の道筋が丁寧に設定されており、批判的視点を養うためにより適切な方法である。また、批判的思考を支える多角的な視点を育てるため他者が関わる学習方法を導入し、教師においては批判的思考を促す「問い」も意識して取り組んだ。そして、問題解決的な学習を単発的なもので終わらせることなく、日ごろから生活を見つめ、考え、解決に向けて実践するといった家庭科学習の柱として位置づけた。具体的な方策は、次の5点である。①実践的推論プロセスを授業でたどる実践、②協同学習、③8つの問いかけ、④ちょっと思ったことカード(HP に向け各校の実情に応じ、授業内外で取り入れた)、⑤HP (段階を追ったワークシートを作成し、事前学習で協同学習を行った)。授業実践の評価に関しては、授業実践ごとに生徒のアンケートなどから振り返りを行い、また、地区会では教員自身がKJ法による協同学習を通して効果を検証した。

3. 実践の結果と今後の課題

①実践的推論プロセスを導入した問題解決型学習の授業構成は、大きく3つに分類された。

【スタート型】領域を一つの大きな問題解決型学習としてとらえ、その導入部分として、実践的推論プロセスの「問題への着目」、「問題の特定」を行い、これからの学習でより詳細な「解決の選択肢検討」をはかり、「決定と行動」「省察」に至ると仮定したもの。

【HP型】HP をなぞる形式になっており、HP の前に行くことでHP への理解を助けるもの。

【実体験型】「決定と行動」が模擬的なものにとどまらず現実の「決定と行動」をさせるもの。

実践評価において、②「協同学習」（サンドイッチ方式：個別の省察→共同構成→個別の省察）は有効である。特に「根拠のある情報を元に」行ったり、段階的に視点を広げていく方法が効果的であった。

③「教師による8つの問いかけ」は、その表現により効果が異なり、より具体的にイメージしやすい問いかけが効果的であると思われた。④「ちょっと思ったことカード」は、校種を問わず一定の効果を得た。

⑤「決定と行動」までを体験させることで、思考は確実に深まった。課題としては、内容の精選・教材教具の工夫（校種を問わず必要）、「決定と行動」までたどらせる授業計画の工夫、サンドイッチ方式の導入に際して意見を交換しやすいグループ作り、校種により手応えに差があることから思考を深める学習方法や協同学習になじまない生徒の指導についての方策の必要性があげられる。これらの課題に対する方策として、情報収集の図書館利用や視覚支援、話題性のある教材の工夫、実践的推論プロセスを一つの大きな流れでしっかり通す授業計画の見直し、グループ活動における台本の用意、教員と生徒の間のやりとりで多角的視点を育てる工夫、「繰り返し」、「習慣化」することの重要性が明らかとなった。

メタ認知能力育成をめざした調理学実習の試み

安田女子大学 田中 由美子

【研究目的】

生涯を通じて健康を維持するためには、健全な食生活と、その基になる食育および生活（調理）実践力の育成が必要である。しかしながら、現代社会においては、食生活の外部化が進み、家庭にもちこむ「中食」および「外食」が急増し、家庭内での調理が減少傾向にある。

先行研究の中に、保育園児の保護者の40～50%が食事作りに対する負担感を訴えているものが見られ、その理由として、時間不足による不行届、レポートリーの少なさ、調理への苦手意識等が挙げられている。また、本学女子大学生の調理学実習履修前の意識調査でも、「料理は面倒なのであまりしない」との質問項目に「とても」「やや」そうだと答えた学生は約25%であった。近い将来、母親となり、食事作りを担当し、次代を担う子どもたちを育てていく女子大学生の負担感を軽減するには、手際よく調理でき、楽しみながら主体的に調理実践し、レポートリー増やすことが必要であり、そのためには、技能習得とともに主体的意識の醸成が不可欠である。

技能習得（熟達）について、認知心理学の研究の中では、一定の動作を繰り返し練習することで熟達する「固定的熟達化」と、状況・課題が変わっても優れた技能を発揮でき応用の利く「適応型熟達化」に区別されており、調理技能では後者をめざしたい。これを実現するためには、「適応的熟達の鍵」 「学習者の主体的学びに大きな影響力を持つ」とされている「メタ認知」の育成が有効であろうと考えた。

そこで、大学生の調理技能の効率的熟達と、調理に対する意欲喚起、主体的意識の醸成を最終目的とし、本研究ではその前段階の試みとして、調理学実習においてメタ認知能力育成をめざした介入を行うことが有効か否かを検討し、有効であった場合、それが調理場面だけでなく日常生活場面においても転移、般化するか否かを検討することを目的とした。

【研究方法】

研究対象は、Y女子大学において調理学実習Ⅰを履修した3年1組、2組計80名の女子大学生である。実施期間は2013年4月～7月、下記の方法にて実施した。

実験1は、調理実習終了直後の感想・反省記入用紙にメタ認知を意識化させるための質問項目を設け、それに答えることでリフレクションする機会を設けたAクラスと、その質問項目を設けず自由記述させるBクラスに分け、5回の調理実習後の意識・行動の差異を検討した。その後、Aクラス、Bクラスを入れ替え、計10回の調理実習終了後には、1,2組とも同じ条件になるようにした。

実験2は、実習開始前の4月と、終了後の7月の2時点において、調理上および日常生活上、メタ認知を働かせているか否かを尋ねる質問紙調査を行い、10回の調理実習前後の差異を検討した。

【研究結果】

実験1の結果、調理実習後に質問項目でリフレクションしたAクラスに、有意にメタ認知の意識化、行動変化が見られた。

実験2の結果、調理上は10項目中8項目において、有意にメタ認知の意識化、行動変化が見られたが、日常生活上においては、10項目中1項目にしか有意な変化が見られなかった。これは、学習したことが、ある特定領域内のみで利用可能という領域固有性であると考えられ、今回の試みでは他への転移、日常生活への般化は見られなかった。

今後の調理学実習Ⅱの中で、引き続き分析・研究を進める。

【発表番号5】

フードマイレージを取り入れた買い物の学習とその改善

光市立室積小学校 ○松本 マリ子
山口大学教育学部 西 敦子

1 研究の目的

「国連持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) の10年」を、日本は2002年にヨハネスブルグサミットで提案した。この国連のキャンペーンは、2005年から2014年に向けて国境を越えた取り組みが進んでいる。学習指導要領の『D 身近な消費生活と環境』「(2) ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること」は、文部科学省がESD実施のために家庭科教育へ提案している「環境に配慮した自分の家庭生活の工夫」と一致する。そこで、環境に配慮した消費者の育成をめざして、フードマイレージに着目した授業を開発することとした。

2 研究方法

6年生児童を対象にした学習において、過去に行ったフードマイレージの視点をもたせるための授業を改善し、その効果を検証した。改善後の学習指導案を以下に示す。

題材名 家族に作ってあげたい1食分の献立を作ってみよう～そうだったのか！フードマイレージ～

目標

- (1) 食事の大切さに関心を持ち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。(家庭生活への関心・意欲・態度)
- (2) 購入しようとする物の品質や価格、環境への配慮などの情報を活用し、目的にあった物の選び方や買い方について、自分なりに工夫している。(生活を創意工夫する能力)
- (3) 調理において、適切な材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付けや配膳及び後片付けができる。(生活の技能)
- (4) 3つのグループの食品を組み合わせることで、栄養のバランスがよい食事になることを理解している。(家庭生活についての知識・理解)

指導計画 (総時間数 11時間)

次	時	学習活動・内容	評価の観点				おもな評価規準 観点【 】 評価方法 ()
			関	創	技	知	
一	4	献立を作ろう (1) 日本食文化がユネスコ文化遺産に登録申請された訳を知ろう (2) 休みの日に家族に作ってあげたい1食分の献立を作ろう		○		○	3つのグループの食品を組み合わせることで、栄養のバランスがよい食事になることを理解している。【知】(ミニテスト) ごはんのみそ汁を含む1食分の献立を、栄養のバランスに配慮して作ることができる。 【創】(献立カード)
二	1	買い物ゲームをしよう(本時) (1) 表示を活用しよう (2) フードマイレージって何? (3) 地産地消・旬の食材のよさ	○			○	購入しようとする物の品質や価格、環境への配慮などの情報を活用し、目的にあった物の選び方や買い方について知る。【関】(話し合いの様子)(事前・事後のアンケート) 【知】(発表)(事前・事後のアンケート)
三	5	調理実習をしよう (1) ジャガイモを使ってレポートを増やそうー基本実習ー2時間 (2) 家族に作ってあげたい献立で食べてみようー応用実習ー3時間		○	○		調理において、適切な材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付けや配膳及び後片付けができる。【創】(写真) 【技】(行動)
四	1	ホームページで紹介しよう 献立作りの工夫についてまとめよう		○		○	栄養のバランスがよい食事になることを理解しているとともに、調理実習での学習をよく伝えるように発信しようとしている。 【知】(ホームページ紹介用プリント)
家庭		休日に家族へ朝食を作ってみよう	○				【関】(実践カードの記述から)

3 結果および考察

今回の授業の改善により、以下の3点について成果が得られた。①フードマイレージを朝食づくりの題材に入れる可能性を見いだすことができた。②環境へ配慮した視点をもたせることができた。③買い物の観点をシートでポイント化することにより、話し合いが活性化した。

日本家庭科教育学会中国地区会
 公開講演会
パフォーマンス評価の考え方と進め方

於：安田女子大学
 2013年8月24日
 京都大学大学院教育学研究科 西岡加名恵

はじめに：自己紹介

- 教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)
- パフォーマンス評価(ポートフォリオ評価法、パフォーマンス課題、ルーブリック)
- 日本の学校の先生方と共同研究開発
- アメリカやイギリスの調査
- 大学では教員養成の仕事も担当(教育実習指導など)
- 京都大学大学院教育学研究科E.FORUMの講師と運営を担当
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ(2009年6月～2010年3月)、文部科学省教育研究開発企画評価会議協力者(2011年11月～)、育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員(2012年12月～)、多様な学習成果の評価手法に関する調査研究事業 評価・推進委員会委員(2013年6月～)

※E.FORUM

全国スクールリーダー育成研修

- 2013年6月17日～19日：パフォーマンス課題作りなど
- 2014年3月：実践交流会
- <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>



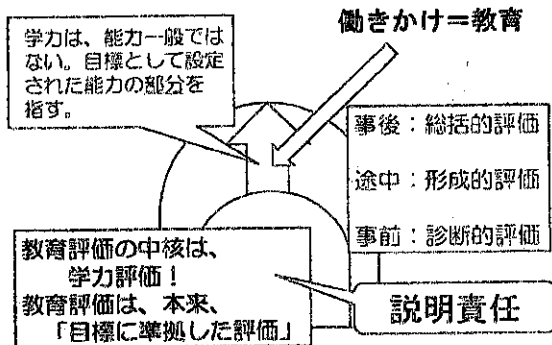
1. 教育評価の基本用語

(1) 教育評価とは何か？

- ① 教師が学習者(児童・生徒・学生)の能力を評価する。
- ② 教師が学習者(児童・生徒・学生)の学力を評価する。
- ③ 教師が自分の教育実践を評価する。
- ④ 社会が学校の教育を評価する。

※何番が正解でしょうか？

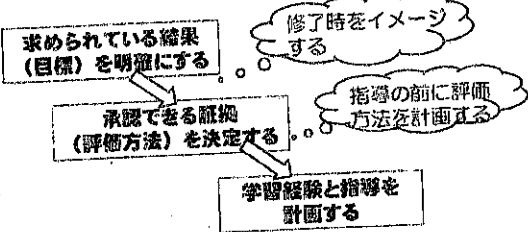
(2) そもそも教育とは何か



(3) 「目標に準拠した評価」の意義と実践上の課題

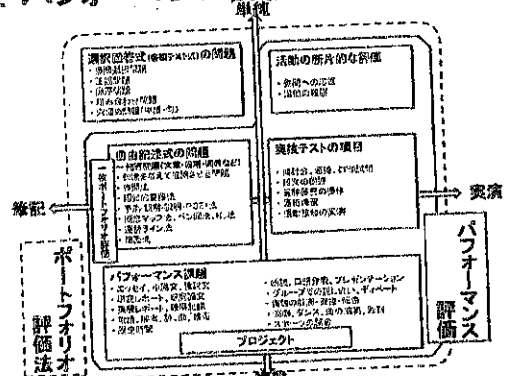
意義	実践上の課題
<ul style="list-style-type: none"> • 指導の前に、目標を明確にする • 目標と照らし合わせて評価する (「指導と評価の一体化」) • 指導を改善する • すべての学習者に学力を保障する 	<ul style="list-style-type: none"> • 目標=評価規準・基準をどう定めればいいのか？ • どんな評価方法を用いればいいのか？ • 評価を活かして、どう指導を改善すればいいのか？ • 目標に教育が縛られる？ <p>Cf. ゴール・フリー評価 羅生門的アプローチ</p>

(4)「逆向き設計」論



(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design*, ASCD, 1998/2005. ウィギンズ & マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)

2. パフォーマンス評価



(西岡加名恵・田中晴治編著『活用する力』を育てる授業と評価、中学校学習出版、2009年、p.94参照)

(1) 登場の背景

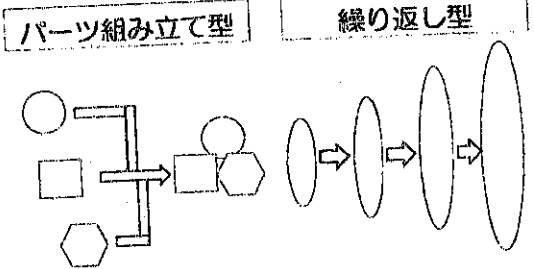
◆1980年代末から1990年代にかけてのアメリカ合衆国

- ・ 客観テストによって、学校の説明責任を求める政策への批判
- ・ 学力観の転換
- ・ 「真正の評価 (authentic assessment)」論
 - 現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したリシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの



「固液混合物」を純粋な物質に分け、性質を明らかにする実験を、計画・実施・報告しなさい。
(Wiggins, G., *Authentic Assessment in Action*, ReLearning by Design, 2000)

(2) パフォーマンス課題のパターン (単元内、単元間の構造)



(3) パフォーマンス評価

- ・ 知識やスキルを使いこなす(活用する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)
- ・ ①学力観の転換、②パフォーマンス評価の方法、③評価基準としてルーブリック

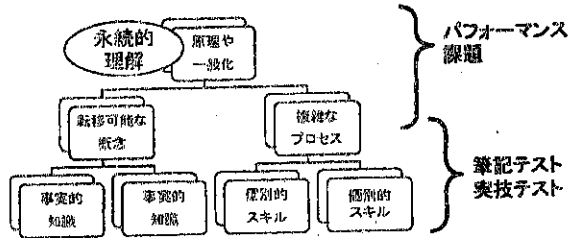
(4) パフォーマンス課題とは・・・

- ・ 様々な知識やスキルを総合して使いこなす(活用する)ことを求めるような、複雑な課題。
- ・ 具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する課題。

(5) 日本の政策への導入

- ・ 「学習指導要領解説 総合的な学習の時間」(2008年)、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2010年3月24日)
 - ポートフォリオ、パフォーマンス評価を推奨 (「思考力・判断力・表現力」の評価)
- ・ 中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(2008年12月24日)
 - 学習ポートフォリオとティーチング・ポートフォリオの導入と活用を推奨
- ・ 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会、中央教育審議会高大接続特別部会・高等学校教育部会など

(6)「知の構造」



(McTighe, J. & Wiggins, G. *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.66の図や, Erickson, H.L., *Shriving the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図を参考に作成。G・ウィギンス、J・マクタイ、高岡裕名 著「理解をもたらしカリキュラム設計——「逆内き設計」の理論と方法」日本経済、2012年10月号）

◎理解 (Understanding)

- 洗練された柔軟なやり方で知識とスキルを使える状態
- 理解の6側面 → パフォーマンス
 - 説明する
 - 解釈する
 - 応用する
 - パースペクティブを持つ
 - 共感する
 - 自己認識を持つ

永続的理解

- いろいろな場面で役立つ(転移する)内容
- 大人になっても覚えてほしい理解
- 学問の中核部分(繰り返し登場する内容)
- 子どもが誤解しやすい内容

(7)「知の深さ」と評価方法の対応

レベル		
4	様々な原理や一般化についての理解を、高度な方略的思考を用いつつ総合して、長期的なプロジェクトに取り組む	パフォーマンス課題
3	原理や一般化についての理解と方略的思考を総合して用いつつ、課題に取り組む	
2	概念・プロセス(二つ以上の手順)を把握・適用する	筆記テスト 実技テスト
1	事実に基づく知識・個別のスキルを再生する	

本表は「知の深さ」を評価する目的で、作成した。McTighe, J. & Wiggins, G. *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65 各レベルが高度な能力の範囲を捉える特徴が、同じレベルの深さを中心に、途中から評価項目(理解)を捉える。本表は「知の深さ」を評価する目的で、作成した。McTighe, J. & Wiggins, G. *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65 各レベルが高度な能力の範囲を捉える特徴が、同じレベルの深さを中心に、途中から評価項目(理解)を捉える。本表は「知の深さ」を評価する目的で、作成した。McTighe, J. & Wiggins, G. *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65 各レベルが高度な能力の範囲を捉える特徴が、同じレベルの深さを中心に、途中から評価項目(理解)を捉える。

3. パフォーマンス課題を作る

第1段階	○ゴール(目標)
	本質的な問い 永続的理解
	知識とスキル
第2段階	パフォーマンス課題 その他の証拠
	学習計画
第3段階	

(1)「本質的な問い」を明確にする

「本質的な問い」の例	「本質的ではない問い」の例
1. 立場や境遇を越えて、友情は成立するか?	1. 国土は、なぜ「どんな様！」と言ったのか?
2. その国の特徴は、どのように捉えられるのか?	2. 中国の人口は何人か?
3. 自然や社会の中にある、ともなう変わる2つの数量の関係はどのように捉えられるのか?	3. 品物の値段と消費税の関係は、比例か?
4. 星は地球上をどのように動くのだろうか?	4. 今日の日出の時刻は何時か?
5. この音楽のイメージは、どのように捉えられるのか?	5. この曲の名前は何か?

◎「本質的な問い」の特徴

◎「問い」の入れ子構造

- ◆ 方法論の問い
- ◆ 概念理解の問い

対応する「理解」も、
入れ子状に存在
～深い理解と深い理解

包括的な「本質的な問い」

単元ごとの「本質的な問い」

授業での主疑問
授業での主疑問
授業での主疑問
授業での主疑問

単元ごとの「本質的な問い」

授業での主疑問
授業での主疑問
授業での主疑問
授業での主疑問

◎実践例

中学校2年生社会科(歴史的分野)

(横浜国立大学附属横浜中学校・当時 三浦あさみ先生)

本質的な問い

明治維新によって、日本社会はどのように変化したのか。明治維新後の日本において、人々が幸福で平和に暮らせる社会を築くには、どうすればよかったのか。

(2)「永続的理解」を明文化する

- ・「永続的理解(原理・一般化)」は必ず完全な文(「～は、～である。」)として書く。

×「南北戦争の原因がわかる。」

○「南北戦争は、州の権利と論点、南北の根本的な経済的・文化的差異、奴隷制についての分断された意見といった複数の要因によって勃発した。」

×「速く泳ぐことができる。」

○「速く泳ぐためには、引っ張って、押す水の量を最大にするため、手のひらを平らにして泳ぐことが大切である。」

永続的理解

「明治維新という政治改革の背景には、欧米における市民革命、産業革命とアジアへの進出からの影響、貨幣経済発展を想定していない幕藩体制や年貢制度の矛盾など国内外の様々な要因があった。」

また日本が近代国家として国際的地位を向上するために、積極的に欧米文化を摂取し、廃藩置県、富国強兵政策、殖産興業、地租改正、学制の公布など様々な改革を行った。その結果工業のめざましい発展や身分制度の廃止、民主政治の発展など正の側面がみられた反面、公害や労働問題の発生、帝国主義萌芽による大陸進出など負の側面もあらわれた。」

(3)パフォーマンス課題のシナリオを作る ◎シナリオ作りの6要素(GRASPS)

- ・ なー何が目的(Goal)か?
- ・ やんー(子どもが担う)役割(Role)は何か?
- ・ だー誰が相手(Audience)か?
- アア
- ・ そー想定されている状況(Situation)は?
- ・ うー生み出すべき完成作品・パフォーマンス(Product, Performance)は?
- ・ かー(評価の)観点(Standard, criteria)は?

※必ずしも使わなくてもOKです。

パフォーマンス課題

時は1901年、20世紀の始まりです。あなたは明治時代の新聞社の社員たちであり、社会が大きく変化してきた明治維新を記念する社説を書くことになりました。社説は、当時を生きる人々(政治家、産業界の人々、文化人、一般の人々)に向けた新聞社からのメッセージです。

話し合いの内容や今までの学習を振り返り、今後の改革のあり方について重要だと考えることを提案してください。

Cf. 三浦あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか——中学校社会科のカリキュラムと授業づくり——』日本標準、2010年

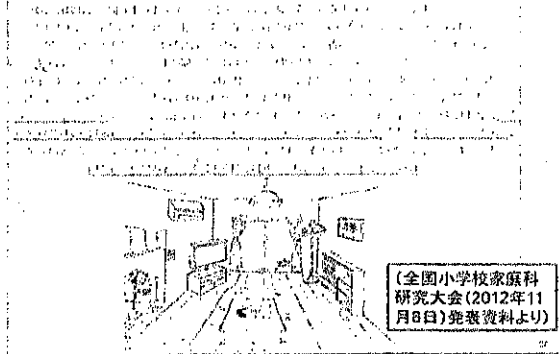
(4) 良いパフォーマンス課題の条件

- ① 妥当性 (validity):
測りたい学力に対応している。
- ② 真正性 (authenticity):
リアルな課題になっている。現実世界で試されるような力に対応している。
- ③ レlevance (relevance: 関連性、切実さ):
生徒たちの身に迫り、やる気を起こさせるような課題である。
- ④ レディネス (readiness):
生徒たちが少し背伸びをすれば手が届く程度の、ちょうど良い難度。

(西岡加名恵「パフォーマンス課題作りのチェックリスト」西岡加名恵・田中耕治編著「活用する力」を育てる授業と評価・中学校「学事出版、2009年」)

(5) 家庭科の課題例

(提供: 佐賀市立本庄小学校 手塚英代子先生、
佐賀大学附属小学校 三好智恵先生)



(全国小学校家庭科
研究大会(2012年11
月8日)発表資料より)

4: ルーブリック作りから指導の改善へ

(1) ルーブリック (ここではレベル2・4を省略)

レベル	原典・一般化に関する	観点 (分けなくても可)	記述語 (規準と徴候)	アンカー 作品
5	社会的な事象について、政治・経済・文化・環境などの構成要素から3つ以上の観点から分析し、選定で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある主張を組み立てることができる。			
3 合格	社会的な事象について、政治・経済・文化・環境などの構成要素から2つ以上の観点から分析し、選定で詳細かつ具体的な根拠をあげて、明確な主張を述べることができる。			
1				

(2) 特定課題ルーブリック 作成用テンプレート

◆ 全体的ルーブリック
または観点別ルーブリック

尺度	作品NO	記述語
5 素晴らしい		
4 良い		
3 合格		
2 もう一歩		
1 がんばろう		

(3) 特定課題ルーブリックの作り方

- ① お互いの採点がわからないように、作品を採点する。



- ② 似た評点がついた作品を集め、特徴について話し合う。



(4) 予備的なルーブリックの作り方

- ① 4段階の観点別ルーブリックのテンプレートを
用意する。
- ② 評価の観点を考える。
「素晴らしい_____の条件は何か」
- ③ 重要な観点(4~6個)に絞る。
- ④ それぞれの評価の観点に対応する記述語を書く。

効果の程度	頻度の程度	独立の程度
非常に効果的 かなり効果的 いくらか効果的 効果的ではない	常に、定期的に 頻繁に、一般的に 時々、時に めったに~ない	独立して 他小領域の支援のもとで いくらかの支援を必要 としつつ かなりの支援を必要と しつつ

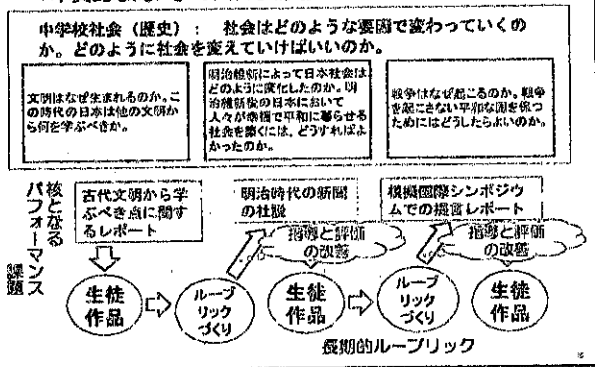
◎テンプレート

教科: _____ 学年: _____ 課題名: _____

観点→ ! 尺度				
並みづけ				
4				
3				
2				
1				

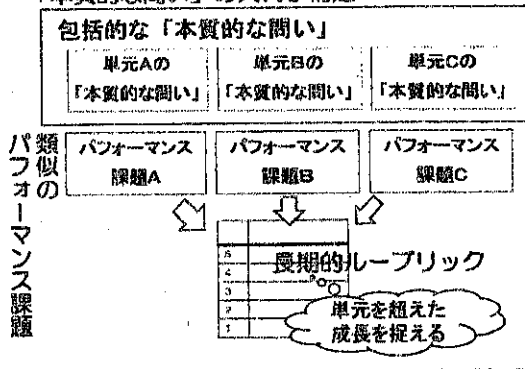
(5) 単元間の構造化

「本質的な問い」の入れ子構造



(6) 長期的ルーブリック

「本質的な問い」の入れ子構造



(7) 活動を観察して評価する 小学校6年生：国語「海の命」ほか (宮本浩子先生の実践を参考にした)

「本質的な問い」

- ◎ うまく話し合うには、どうしたらいいだろうか？
- ・ グループで、うまく読書会をするには、どうしたらいいだろうか？

「永続的理解」

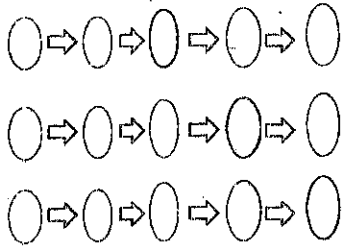
- ・ グループで、うまく読書会をするには、メンバー全員が言うべき時に意見を述べるのが重要である。相手の関心に関心を持って聞き、質問したり感想を述べたりして、相手の発言に関わると、良い話し合いになる。

パフォーマンス課題「読書会をしよう！」

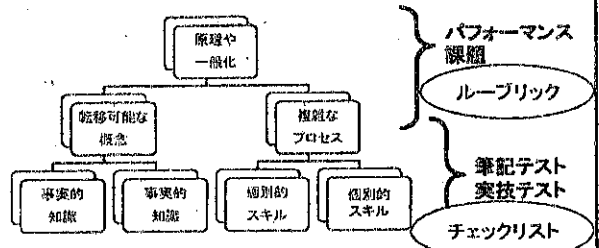
- ・ グループに分かれて、読書会をします。物語を読み、「じっくり考えてみたいなあ」と思ったり、「友達と話し合ってみてみたいなあ」と思ったことについて、20分程度、話し合いをしましょう。お互いの発言を生かして、読みを深めるような話し合いになるといいですね。

※授業中に行う総括的評価

- 「繰り返し型」のパフォーマンス課題



(8) ルーブリックとチェックリストを併用する



(McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook* ASCD, 2004, p.65の図や, Erickson, H.I., *Shrinking the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2006, p.31の図をもとに作成。G・ウイギンス、J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらし、カリキュラム設計——「逆方向設計」の理論と方法』日本標準、2012年も参照)

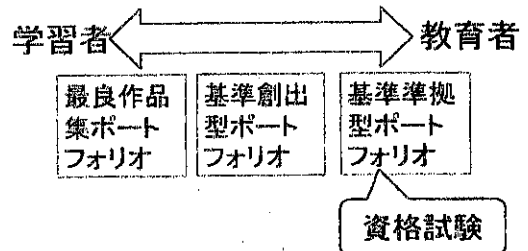
5. ポートフォリオ評価法の活用

(1) ポートフォリオ評価法とは

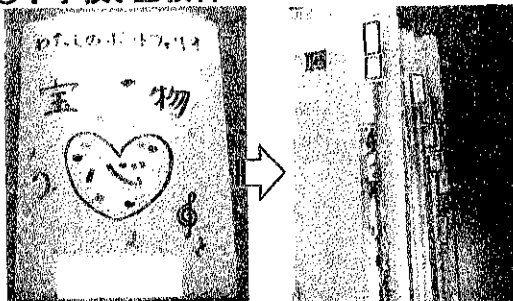
- ・パフォーマンス評価の方法の一つ
- ・ポートフォリオ：学習者(児童・生徒や学生)の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ・ポートフォリオ評価法：ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

(2) ポートフォリオの所有権

- ・所有権 (Ownership) : 残す作品や評価する基準の決定権

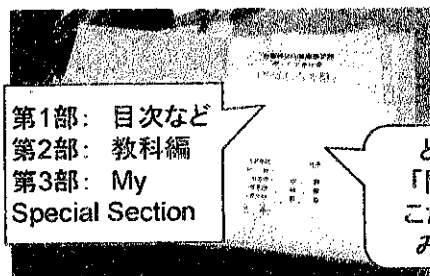


(3) 多様な作り方
◎小学校、全教科



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世龍神昭彦総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編)日本標準、2004年も参照)

◎京都府立山城高校「やましる文箱」

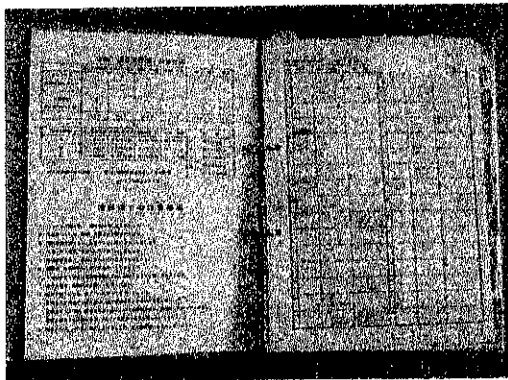


- 第1部：目次など
- 第2部：教科編
- 第3部：My Special Section

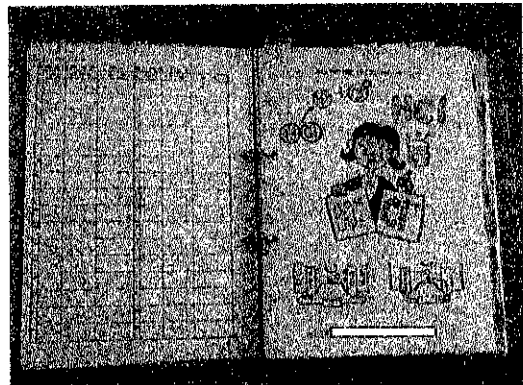
とことん「問い」にこだわってみよう！

Cf. 京都大学 高校生のためのOCW
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/63>

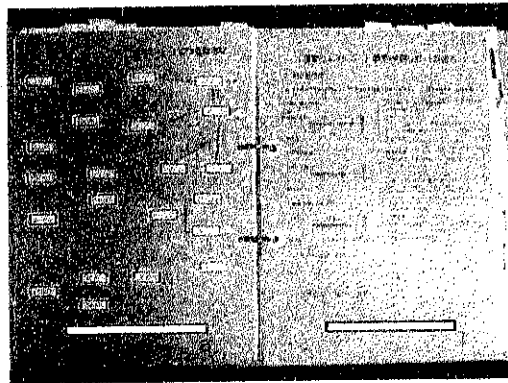
◎中学校、理科(田中保樹先生)



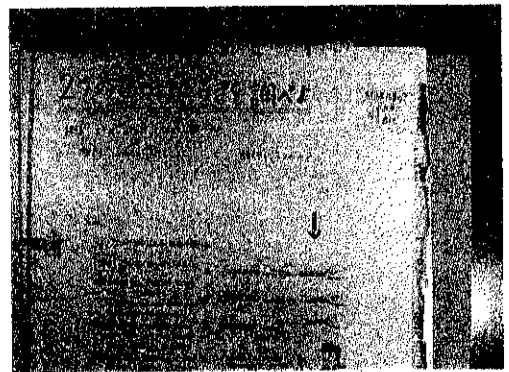
◎中学校、理科(田中保樹先生)



◎中学校、理科(田中保樹先生)



◎中学校、理科(田中保樹先生)



◎イギリス GCE 応用科学

評価の単元	必修/選択	レベル	評価方法	AO1	AO2	AO3	計
G620 機能している科学	必修	AS	ポートフォリオ	38	20	42	100
G621 職場における分析	必修	AS	ポートフォリオ	38	20	42	100
G622 人体の活動をモニタリングする	必修	AS	外部試験	64	36	—	100
G627 科学者の仕事を探究する	必修	A2	ポートフォリオ	20	28	52	100
G629/G635	選択	A2	外部試験	50	50	—	100
G629-G634のうち1つ	選択	A2	ポートフォリオ	20	28	52	100
				230	182	188	600

(OCR GCE Applied Science, 2013)

AO1: 知識と理解の表現
 AO2: スキル・知識・理解の応用
 AO3: 実験と調査

Cf. イギリスの資格試験団体のウェブページ

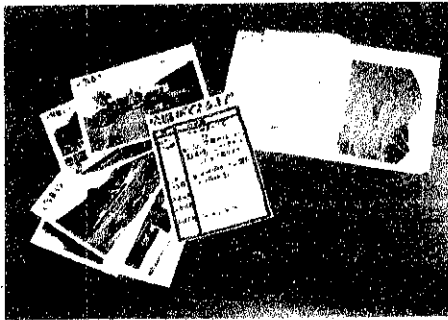
- OCR <http://www.ocr.org.uk/>
- AQA <http://www.aqa.org.uk/>
- EDEXCEL <http://www.edexcel.com/Pages/Home.aspx>
- ASDAN <http://www.asdan.org.uk/>

※科目明細 (specification: シラバス)、過去に出題された問題・課題や採点基準、受験者用の資料などを見ることができます。

Cf. イギリスのナショナル・カリキュラム

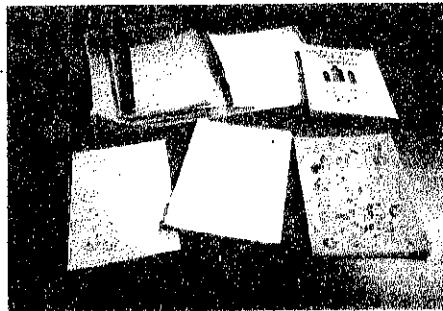
<http://www.education.gov.uk/schools/teachingandlearning/curriculum>

◎小学校、「総合的な学習の時間」



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

※ワーキング・ポートフォリオから
パーマネント・ポートフォリオへ

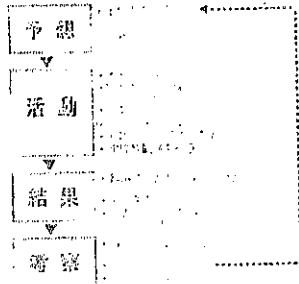


(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

◎谷口中学校の「総合的な学習の時間」

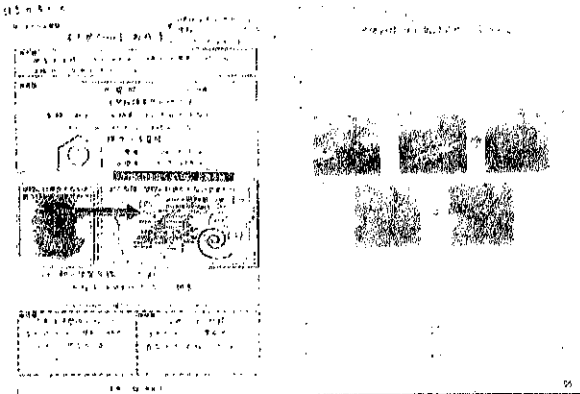
実践/
自ら考える
生徒たち

「考え方のサイクル」

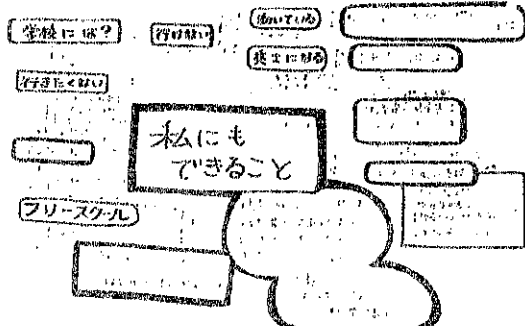


(田中耕治監修『実践！自ら考える生徒たち—総合から教科へ、谷口中学校の取り組み—』(VHS/DVD+解説書+CD-ROM資料集)岩波映像、2003年)

※まとめシート

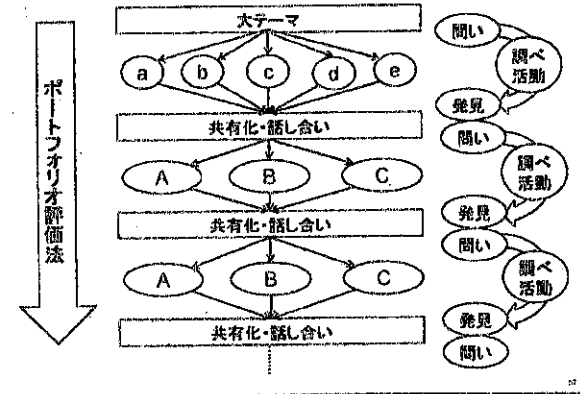


※図解



Cf. 久保啓一『図解 人生がうまくいく人は図で考える』三笠書房、2003年

◎単元の構造



(4) 指導上のポイント

- ① 子どもと教師で見通しを共有する。
 - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
 - 何を残すのか？
 - いつ、どの期間で作るのか？
 - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する(整理・取捨選択する)。
 - ワーキング・ポートフォリオからパーマナント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
 - 検討会で見せる作品を選ぶ。
 - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
 - 見通しを持つ。
 - 到達点と課題、次の目標を確認する。
 - 成果を披露する。

(5) ポートフォリオ検討会

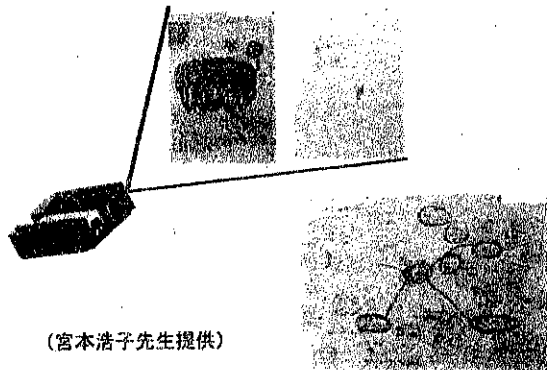


(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅伸昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)。

※検討会の進め方

- ① _____ で、自己評価を引き出す。
 - ② _____ (_____)。
 - ③ 現時点での到達点を確認する。
 - ④ _____ を通して、課題をつかませる。
 - ⑤ 次の目標を言語化し、合意する。
 - ⑥ _____ 。
- ※一斉指導(作品批評会など)の形で行うことも可能。

※作品批評会



(宮本浩子先生提供)

6. 学力評価計画の立て方

(1) 目標分析 ※問題点は？

	単元1	単元2	単元3	...	総括的評価
関心・意欲・態度	目標aa 目標ab 目標ac	目標ad 目標ae 目標af	目標ag 目標ah 目標ai	...	合計・平均
思考・判断	目標ba 目標bb 目標bc	目標bd 目標be 目標bf	目標bg 目標bh 目標bi	...	合計・平均
技能・表現	目標ca 目標cb 目標cc	目標cd 目標ce 目標cf	目標cg 目標ch 目標ci	...	合計・平均
知識・理解	目標da 目標db 目標dc	目標dd 目標de 目標df	目標dg 目標dh 目標di	...	合計・平均

◎問題点

- 目標が限りなく細分化。⇒多忙化
- 評価方法がわからない。
- 「高次の学力(思考力・判断力・表現力等)」が評価できるか、疑問。
- どの程度のパフォーマンスが見られれば「良し」と判断できるのか、不明。
～スタンダード←社会的に共通理解
- 伸びないことが前提？！
←形成的評価(授業改善のための評価)と総括的評価(指導後の状況を記録するための評価)の区別がつかない。

(2) 学力評価計画の“三次元モデル”

観点	評価方法	単元 1	単元 2	...	単元 X	単元 Y	総合的評価
関心・意欲・態度	課題					◎	到達レベル(質)
思考・判断・表現	課題		○				レベル
技能	実技テスト	○					レベル
知識・理解	筆記テスト	○	○		○	○	到達レベル(量)

類似の課題を少しずつレベルアップしながら繰り返し与える。

ルーブリック
チェックリスト

(3) 「関心・意欲・態度」の評価

- 「関心・意欲・態度」は、各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。／評価に当たっては、各教科が対象としている学習内容に対する児童生徒の取組状況を通じて評価することを基本と……することが適当である。
- 具体的な評価方法としては、授業や面談における発言や行動等を観察するほか、ワークシートやレポートの作成、発表といった学習活動を通して評価することが考えられる。その際、授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意する必要がある。
- 「関心・意欲・態度」については、……ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である。
(「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」より)

◎パフォーマンス課題の例

- あなたは、新入生対象のオリエンテーションで、「なぜ●●科を学ぶのか？」を説明することになりました。そこで、「●●科で学ぶ★★は、こんな風に役立ちます！」と説明するパワーポイントを作成します。
- 今まで、この教科で学んだことの中から重要な内容の一つを選び、その内容の魅力は何か、その内容はあなた自身の生活の中でどのように役立っているのか、将来どのような場面で役立つのかといった点について、自分なりに調べたことや、実際に体験したことなどを具体的に示しつつ説明してください。

(4) 学力評価計画を評価する視点

- カリキュラム適合性 ← 妥当性
 - 比較可能性 ← 信頼性
- Cf. スタンダード：
社会的に共通理解された目標＝評価基準
- 公正性：平等性、結果の妥当性、条件の明瞭さ、公表と承認の原則
 - 実行可能性
(西岡加名恵「教育評価の方法原理」田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房、2005年)

■「本質的な問い」の特徴

- 単純な一つの答えがない
(論争的、探究を触発、様々な深まり)
- 個々の知識やスキルが総合されていくような問い
- 様々な文脈で活用できるような問い(転移)
- 単元を越えて繰り返し現れるような問い(再考を促す、転移、カリキュラムの系統性)
- 「だから何なのかが」見えてくるような問い(学問の中核、生活との関連性など)

<主要参考文献>

- ① 西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年
- ② 宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年
- ③ 西岡加名恵編著『逆向き設計』で確かな学力を保障する『明治図書、2008年～小学校4教科、中学校5教科の実践など。』
- ④ 西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校『学事出版、2009年～中学校全教科のパフォーマンス課題とルーブリックなど。』
- ⑤ 堀哲夫・西岡加名恵『授業と評価をデザインする 理科』日本標準、2010年
- ⑥ 西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年
- ⑦ G.ウイギンズ、J.マクタイ(西岡加名恵訳)『理解をもたらしカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年

広島大学教育学部は1類～5類に分かれています。その中で教員免許状の取得が義務づけられているのは1類のみです。その1類の初等教育教員養成コースは、教育学・心理学を中心とする学習開発講座と各教科の担当教員で構成されている初等カリキュラム開発講座に分かれています。私は初等カリキュラム開発講座に属しており、各教科（9教科と外国語活動）2名体制（一部1名）になっています。

私の授業科目は、学部では初等家庭科教育法、初等家庭科授業研究、初等家庭科学習指導論、初等教育カリキュラム開発論などを担当しています。初等家庭科教育法は小学校教員免許の必修科目ですので、約250名の受講者を2クラスに分けて、同じ授業を2回行っています。大学院前期課程では、初等カリキュラム開発特講(家庭)、初等カリキュラム開発特論(家庭)、初等教育学習指導法セミナー(家庭)、初等教育評価開発セミナー(家庭)、初等教育実践研究(家庭)などを、大学院後期課程では、学習開発特別研究、学習開発講義などを担当しており、毎日授業に追われています。

平成25年度の伊藤ゼミ所属の卒論生は5名で、大学院前期課程の学生が1名、後期課程の学生が2名です。本原稿を執筆しているのは2月中旬であり、学生たちの卒業論文発表会、修士論文発表会が終わったばかりです。学生たちは発表会前日までパワーポイントを作成・修正し、発表練習を行っていましたが、その成果がみられ、緊張しながらも良い発表ができたと思います。卒業論文および修士論文の題目を示します。

【卒業論文】

- ・インクルーシブ家庭科における発達障害児の学習過程の分析
- ・キャリア形成の観点からみた家庭科の学び
- ・ジレンマ教材を用いた家庭科における授業開発
- ・食教育を核とした家庭科カリキュラムの提案
- ・シュタイナー教育による子どもの学び

【修士論文】

- ・小学校家庭科における「ミシン縫いによる製作」授業の開発
—「わざ」習得の認知プロセスに着目して—

現在の私自身の研究は、3つに分かれています。

一つ目は、家庭科授業における実践的研究です。これについては、家庭科における今日的課題について附属小・中学校の先生方と共同研究を行っています。

二つ目は、家庭科におけるインクルーシブ教育（特別支援教育）に関する研究です。この研究は、家庭科におけるインクルーシブ教育に関心を持つ広島県内の先生方と「インクルーシブ家庭科研究会」を発足させ、研修及び授業開発を行っています。昨年は、本学の特別支援教育専門の教員を講師としてお招きし、インクルーシブ教育に関する研修会を開催しました。

三つ目は、初等教育教員養成コースの先生方との共同研究です。現在の研究テーマは、教員の資質能力向上をめざした「大学と教育委員会による新たな連携・協働型初任者研修プログラムのモデル開発に関する研究」です。本コースに所属する教育学、心理学および各教科の教員が意見交換し、役割分担しながら研究を進めています。専門を異にする先生方の意見は新鮮で、学ぶところが多くあります。

以上のように、授業に追われる慌ただしい毎日ですが、学生たちと、附属学校の先生方と、広島県内の先生方と、他専門の先生方など多くの方々と交流を深めながら研究を進めています。このような私たちの研究が家庭科教育の充実・向上の一助になれば幸いです。

小学校低学年における家庭科学習の意義

岡山大学教育学部附属小学校

信清 亜希子

1. はじめに

現在、小学校における家庭科学習は、第5・6学年にしか課されていません。子ども達は、一人の生活者として生活を営んでいるにもかかわらず、第5学年になるまで家庭生活について学ぶ機会がないのです。しかし、小学校で教員をしていると、家族の名前や年齢を知らない子どもや、肌着を着ておらず、なぜ着ていないのかを尋ねると「お母さんが着なくていいと言った。」と答える子どもに出会うことがあります。その度に、私は家庭科の重要性を再認識し、小学校低学年から家庭科学習を行うことができないことに強い疑問を感じるのです。

2. 小学校低学年における家庭科学習の意義 ～家族の実践を通して～

小学校低学年からの家庭科学習の実践の可能性を検討するために、小学校第1学年で家族学習「家族とは何か」を実践しました。

この学習では、テレビアニメ「ちびまる子ちゃん」と「クレヨンしんちゃん」に登場する2つの家族を取り上げました。子ども達にとって身近なアニメであったため、大喜びで2つの家族を比較していきました。ここで取り上げた「クレヨンしんちゃん」の家族は、犬を飼っているのですが、子ども達から「犬は動物だから家族ではない。」という意見と「動物だけど家族だ。」という2つの意見が出ました。「もし、この犬がいなかったらどうか。」と問いかけると「いないと困る。」「やっぱり、犬も家族だ。」という考えにまとまりました。この2つの家族の比較を通して、子ども達は「どちらも同じ家族だが、それぞれの家族は異なっている」という概念を1年生なりに獲得することができていました。

その後、自分の家族構成員をワークシートに記入させたのですが、先に述べたように、自分の家族の名前や年齢だけでなく、仕事・誕生日を知らない児童も数名見られました。しかし、自分から見た家族の立場が答えられない子どもはいませんでした。このことから、子ども達は「お父さん」「お母さん」のような、日頃自分が呼んでいる立場で家族をとらえていると考えられました。また、「家族について知っていることを書いてみよう。」と問いかけると、何も記入できない子どももいました。家族に対する知識には、大きな個人差が見られました。ペットについては、「ペットも大事な家族だよ。」と言って、ペットを飼っている子ども達は、家族の一員として記入していました。

学習のまとめとして、子ども達に今日の学習でどんなことが分かったかを問いかけると、「自分の家族は世界に一つしかない大切な家族です。」という発言が聞かれました。低学年だからこそ、自分の家族に目を向けさせたり、いろいろな家族があることを理解させたりする事は大きな意味があると考えられました。

この子ども達が2年生になり「家」という漢字を学習した時のことです。「家」を使った言葉を尋ねたところ、「家族」と答えた子どもがいました。「私は四人家族。」「ぼくは五人家族。」と口々につぶやく子ども達。それを聞いて、「ペットも大切な家族だよ。」とつぶやいた子どもがいたのです。それを聞いて、「そうだった!」と周りの子ども達も1年生の時の学習を思い出し、「四人と1匹。」などと言い直す子どももいました。嬉しさと同時に、「1年生の時の学習をもとにして、さらに家族学習の内容を深めさせたい。」という思いを感じた瞬間でした。

3. 終わりに

この実践を通して、小学校第5学年から家庭科を学ぶのではなく、低学年から系統的に家庭科学習を行う方が、子ども達が一人の生活者としてよりよく生きる力を身に付けることができると考えられました。今後も、小学校低学年からの家庭科学習の実践の可能性について検討し、さらなる実践を積み重ねていきたいと思えます。

日本家庭科教育学会全国大会が、岡山大学教育学部で開催されます!

◇6月28日(土)

口頭研究発表	9:30~11:50
ポスター研究発表	13:00~13:30
講演会・シンポジウム	14:50~17:15

◇6月29日(日)

口頭研究発表	9:30~11:50
ポスター研究発表	13:00~13:30
ラウンドテーブル	13:40~15:50

- 今、家庭科に何が求められているのだろう？
- そのために、授業をどのように変えていけばよいのか？
- 研究授業のための教材研究や学習指導上のヒントが欲しい！
- 日々の悩みや課題・・・みんなはどうしているの？

研究発表

家庭科教育の
最新の動きが
わかります！

講演 &

シンポジウム

家庭科教育に関わ
る旬なテーマで
実施します。

ラウンドテーブル

授業実践を
もとに
話し合きましょう！

学会の詳しい内容は、日本家庭科教育学会ホームページをご覧ください。

<http://www.jahee.jp/>

講演会・シンポジウムへの参加は、無料です。

【講演・シンポジウム】

6月28日(土) 14:50～17:15

岡山大学 講義棟2階5202(大講義室)

テーマ：いま進んでいる教育改革と家庭科—道徳的価値を改めて問う—

基調講演

生き方の転換とホームの再定義—ガイドとしての道徳・倫理

松下良平 氏

(金沢大学人間社会研究域学校教育系・教授)

趣旨

今日、経済成長を続けるために絶えざる能力開発と競争にさらされながら、人びとは経済的豊かさも安定した家庭も手に入れることが困難になりつつある。このような傾向を今後さらに加速させると考えられるのが、グローバル化、少子高齢化、財政逼迫、機械との競争といった要因である。それでも従来の経済成長路線を突き進むのか、それとも生き方の転換を図るのか。

この未知の問いについて考える際に、進むべき道をガイドする役割を果たすと考えられるのが道徳や倫理である。生き方の転換をめざして、社会と家庭の関係を問いなおしたり、家庭(ホーム)の再構築について考え実践したりすることを家庭科教育が試みるなら、それは同時に道徳教育でもあるといえる。道徳教育は単なる規範教育ではない。本講演では、生き方の転換の可能性について道徳・倫理の観点から検討し、ホームの再定義についてもラフ・スケッチを試みてみたい。

講師プロフィール

1959年、鹿児島県生まれ。1987年 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定退学。1987年 日本デュイ学会研究奨励賞受賞。2002年 博士(教育学)(京都大学)。現在、金沢大学人間社会学域学校教育学類・大学院人間社会環境研究科教授、大学院教育学研究科長。日本教育学会理事、教育哲学学会理事、教育思想史学会理事、日本デュイ学会理事。著書：『道徳教育はホントに道徳的か?—「生きづらさ」の背景を探る—』日本図書センター(2011年)、『道徳の伝達—モダンとポストモダンを超えて』日本図書センター(2004年)、『知ることのカー心情主義の道徳教育を超えて』勁草書房(2002年)など。

シンポジウム

シンポジスト 藤田 和美 氏 (小平市立第十一小学校主任教諭)
 國本 洋美 氏 (広島県立安西高等学校教諭)

コーディネーター 綿引 伴子 氏 (金沢大学)

【ラウンドテーブル】

6月29日(日) 13:40 ~ 15:50

岡山大学 講義棟 5208・5206・5307 教室

テーマ：生きる力をそなえた子どもたち—それは家庭科教育から

趣旨

これまで家庭科は、未来に向けて生活を創造する自立した生活者を育むことを目指してきました。現代社会にみられる様々な課題は、生活者としての自立や共生を可能にする「生活力」の低下によるところが大きいと考えられます。この「生活力」の見直しこそ「生きる力」の再生につながります。

本ラウンドテーブルでは、テーマを「生きる力をそなえた子どもたち—それは家庭科教育から—」とし、「生活力」の育成につながる家庭科授業の提案と理論をふまえた検討を通して、「生きる力」を根底から支える家庭科教育の在り方を問い直し、発信への糸口を探ります。そして、今日求められている教育課題に家庭科はどのように応えればよいのか、改めて学びの可能性を探りたいと思います。

RT1：家庭科で家族をどう教えるか (5208 教室)

<話題提供者>

竹吉昭人 氏 (島根大学附属小学校教諭)
藤井志保 氏 (広島大学附属三原中学校教諭)
コーディネーター 宮里智恵氏 (くらしき作陽大学)

RT2：生活実践力を育成する家庭科の授業開発 (5206 教室)

<話題提供者>

篠田希美 氏 (山口大学附属光小学校教諭)
児玉智美 氏 (広島県立大竹高等学校教諭)
コーディネーター 西 敦子氏 (山口大学)

RT3：ESDとしての家庭科教育の可能性と役割 (5307 教室)

<話題提供者>

信清亜希子 氏 (岡山大学教育学部附属小学校教諭)
奥村直美 氏 (鳥取大学附属中学校教諭)
コーディネーター 福田恵子氏 (鳥取大学)

6月の学会において
販売する予定です。

「共同研究報告書」作成のお礼

会員の皆様、共同研究報告書作成へのご協力ありがとうございました。

お蔭を持ちまして、「生活実践力を育成する家庭科の授業開発」と題しました共同研究報告書を6月に発行できる運びとなりました。今回の報告書は、できるだけ多くの教育現場の先生方にご参加いただき、また、日常の授業への生かしていただく事を願って、研究部門のほかにも教材紹介部門を設けました。報告書の構成は、研究部門17編、教材紹介部門6編となっております。皆様の、今後の研究活動の一助となれば幸甚です。なお、本報告書は実費での頒布も予定しております。お知り合いの先生にご紹介いただければうれしく思います。

山口大学 西 敦子

タイトル：「生活実践力を育成する家庭科の授業開発」

発行：2014年6月

頒布価格：1冊 1,000円

■□■ (2013年度 日本家庭科教育学会本部だより) ■□■□■

中国地区会代表 佐藤 園 (岡山大学教育学部)

島根大学の多々納先生と共に、平成25・26年度中国地区会代表を務めさせて頂く佐藤です。よろしくお願い致します。

平成25年12月7日に東京学芸大学で「日本家庭科教育学会2013(平成25)年度例会」が開催され、例会終了後、「2013年度日本家庭科教育学会第2回地区会代表者会議」がありました。議題は、協議事項として①学会新入会員の地区会への紹介方法の検討、②日本家庭科教育学会第57回岡山大会(2014)について、報告事項として①地区会、②理事会が主なものでした。

例会と地区代表者会議で最も問題となっていたのは、例会のシンポジウムとして開催された「エビデンスから考える家庭科学習の質保証」に関してです。これは、学会が取り組んできた「家庭科の授業時間増」を目的として「家庭科関係者以外の方々に家庭科の必要性をアピールする」ことに、より集中的に取り組むために、今年度からエビデンス収集に関する「課題研究」を立ち上げ、その取組の方向を検討するために開かれたものです。

曾我部多美先生(全国小学校家庭科教育研究会会長)、小谷野茂美先生(前・全日本中学校技術・家庭科研究会副会長)、望月昌代先生(文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官)、岡陽子先生(佐賀県立牛津高等学校校長)の4名のシンポジストから、各種調査結果に基づき、家庭科のエビデンスとしてどのようなものが求められているのか、が提案されました。その前提には、家庭科には道徳と重なっている内容が多く、次の教育改革では家庭科が廃止しされてしまうのではないかと、という問題がありました。

この家庭科の根幹を問われる問題に学会として取り組むために、小・中・高等学校の家庭科の実践を中心とした実証データを伴う授業実践や調査結果などのエビデンスが求められています。また、本年6月28・29日に中国地区会が実行委員会として開催する「日本家庭科教育学会第57回岡山大会」では、第1日目に本部主催のシンポジウムとして「いま進んでいる教育改革と家庭科—道徳的価値を改めて問う—」が企画されており、金沢大学の松平良平先生による基調講演「生き方の転換とホームの再定義—ガイドとしての道徳・倫理(仮題)」の他に、道徳と家庭科との関係を考えるシンポジウムが予定されています。さらに、第2日目には、「生きる力をそなえた子どもたち—それは家庭科教育から—」をテーマとする本部・中国地区会共催のラウンドテーブルを計画しており、今日求められている教育課題に対して家庭科はどのように応えることができるのかを、「問いをもち探究する学び」「生活実践力を育成する家庭科の授業開発」「ESDとしての家庭科教育の可能性と役割」の3つの視点から、中国地区と全国の小・中・高等学校家庭科の実践提案を中心に検討していきたいと考えています。

中国地区会員の先生方には、エビデンス収集にご協力いただくと共に、岡山大会に参加していただき、研究発表やシンポジウム・ラウンドテーブルを通して、家庭科が直面している存廃問題の解決に力を貸していただければ、と思います。どうぞよろしくお願い致します。



事務局だより

<新入会員> (敬称略)

(広島県) 京極周子、浦上千歳 (岡山県) 星島しげ子 (山口県) 三好由佳

(鳥取県) 増田直美 (島根県) 梶山曜子

<退会会員> (敬称略)

(岡山県) 山田英明 (山口県) 松本裕美子

(広島県) 小川貴弘、佐藤敦子

2. 会報執筆について

〈学校現場より〉 〈研究室だより〉

35号(平成26年度)	広島	山口
36号(平成27年度)	山口	鳥取
37号(平成28年度)	鳥取	島根
38号(平成29年度)	島根	岡山
39号(平成30年度)	岡山	広島

3. 地区会費の納入のお願い

地区会費の納入状況についてのお知らせを同封しています。2014年度の地区会費とともに未納分の地区会費を下記の口座に納入して下さいますよう、お願いいたします。

未納期間が3年を超えますと、自動退会となりますので、ご注意ください。

お知らせの入っていない方は、2014年度まで地区会費が納入済です。

【地区会費】

銀行口座	山陰合同銀行 島大前支店 普通預金
振替口座番号	3809042
加入者名	日本家庭科教育学会中国地区会
年会費	1,000円
入会金	不要

【入会申し込み方法】

下記事務局までお問い合わせ下さい。

4. 事務局連絡先

住所・勤務先の変更などがございましたら、事務局までお知らせ下さい。

〒690-8504 松江市西川津町3085-6 島根大学教育学部 丸橋静香

TEL: (083) 933-5413 E-mail: inoues@edu.shimane-u.ac.jp

編集後記

会報第34号をお届けいたします。第34号会報発行に当たりまして、年度末のお忙しい中、ご執筆下さいました伊藤圭子先生、信清亜希子先生に深く感謝申し上げます。また、西敦子先生には、共同研究の取りまとめから出版にいたるまで大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

今年度の中国地区会は、6月の全国大会(於:岡山大学)との共同開催となります。多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。(福田恵子)